

掲載学術誌：Engineering, Construction and Architectural Management 1–23

論文題目：Construction daily reports in public procurement: Japan vs Switzerland from public owners' perspective  
(邦訳：公共調達における工事日報：公共発注者の視点から見た日本とスイスの比較)

著者：渡邊 玲恵子 (元宇都宮大学)、渡邊 法美 (ボンド大学)、Martin Skitmore (ボンド大学)

URL：<https://doi.org/10.1108/ECAM-10-2024-1317>

要旨 (邦訳)：

**目的** — スイスにおける詳細な工事日報 (Construction Daily Reports: CDRs) は、プロジェクト管理の高度化に寄与するだけでなく、実際の施工コストに基づいた競争力のある入札を可能にし、入札プロセスの透明性向上に貢献している。本研究は、日本の公共発注者の視点から公共調達における CDR の重要性に対する認識を明らかにするとともに、日本の建設現場におけるスイス型 CDR 導入の受容性および導入準備状況を検討することを目的とする。

**方法** — 本研究では、通常の最小二乗法 (OLS) 回帰よりも頑健性および推定効率に優れる分位回帰分析 (quantile regression) を採用した。まず、作成した質問票の妥当性および有効性を確認するためにパイロット調査を実施した。その後、公共発注者を対象に本調査を行い、110 件の有効回答 (N=110) を収集した。非正規性検定の結果、データが正規分布に従わないことが確認されたため、R (version 4.4.1) を用いて分位回帰分析を実施した。分析では、Quantreg パッケージおよび sjPlot を用いて分位分布の可視化を行い、制度改善の必要性に関する認識およびスイス型 CDR の受容に影響を与える要因を検討した。

**結果** — 分析の結果、建設現場の実務経験を有する回答者は、設計図書と実際の施工状況がしばしば異なる現状を開示することへの抵抗感から、スイス型 CDR の導入に対して否定的な傾向を示すことが明らかとなった。また、日本型 CDR とスイス型 CDR に関する評価スコアを独立変数ごとに比較した結果、労働環境、労働者の賃金支払い状況、および CDR と入札制度との関係において有意な差異が確認された。これらの結果は、日本型 CDR に比べてスイス型 CDR の方が入札制度の改善に資する多様な情報を提供する可能性が高いと認識する回答者が多いことを示している。さらに、スイス型 CDR の導入意向は、その有用性の認識および入札制度改善への貢献可能性に強い影響を受けていることが示された。

**独創性・意義** — 本研究は、スイス型 CDR に関する先駆的な研究として、建設現場におけるデータ収集の有効な方法を提示するものである。これにより、公共発注者および施工者の双方にとって、より精度の高い施工コストの把握および見積りが可能となる。施工コストを正確に把握することは、不調入札の防止および信頼性の高いコスト情報に基づく入札の実現に不可欠であり、日本のみならず他国においても健全な入札慣行の形成に寄与することが期待される。また、本研究の方法論は、社会イノベーション研究における理論的枠組みの発展にも貢献する。

**キーワード** — 工事日報、入札、分位回帰、日本、スイス